

消防分野の国際協力の推進

参事官

消防庁では、災害から国民の生命、身体及び財産を守るという万国共通の課題に対応するため、消防機関、外務省、独立行政法人国際協力機構（JICA）等と連携・協力しつつ、消防分野の国際協力を次のとおり実施しています。

- 国際緊急援助活動：国際消防救助隊（IRT）による援助活動
- 開発途上諸国への技術協力：研修員受け入れ（消防本部等との共同研修の実施）、専門家派遣等
- 国際交流：国際消防防災フォーラム、日韓消防行政セミナー、海外の消防関係者との交流、国際会議・国際消防組織への参画等
- 消防科学技術の研究：国際共同研究、外国研究者の受け入れ、国際研究会議への参画

このうち主なものは、以下のとおりです。

【国際緊急援助活動】

国際消防救助隊（IRT）は、海外での大規模災害発生時に派遣される国際緊急援助隊救助チームの中核として、平成22年2月に発生したニュージーランド南島地震災害を含め、昭和61年の発隊以来今日までに計18回の派遣実績があります。

消防庁では、今後の派遣に備えるため、各消防本部が行う「国際消防救助隊の連携訓練」を推進するとともに、国際消防救助隊に登録している全77消防本部を対象に国際緊急援助隊の体制や派遣に関する知識の習得を目指す研修を中心とした「国際消防救助隊セミナー」を実施しており、海外の被災地での救助活動において必要とされる知識、技術（手法）の共有及びチームビルディング（連携）の向上を図っています。

また、本年度は新たに「国際消防救助隊指導員会議」

を8月に開催したところであり、国際消防救助隊の教育訓練における指導員体制の充実にも努めています。



国際消防救助隊指導員会議
(平成25年8月)

【開発途上国への技術協力】

海外からの研修生の受け入れとしては、救急救助技術研修及び消火技術研修の2コースの集団研修が、それぞれ大阪市消防局及び北九州市消防局を主な研修機関として実施しております。このうち救急救助技術研修は昭和62年から、消火技術研修は昭和63年から、過去の経験を生かしつつ用意周到に計画された研修が毎年実施されています。これまでこれら2コースへの研修参加者は、累計で91ヶ国461名（平成25年10月1日現在）にのぼります。

また、開発途上諸国からの要請に基づいて行う国別研修も消防本部の協力のもと実施しています。

平成24年度からは、イラン・イスラム共和国に対して3年間「消防運用体制」研修を実施しており、2年目となる本年度は、12月に防災コミュニティと火災予防制度をテーマに研修を実施する予定です。

このほか、消防本部が独自に開発途上国に対して積極的に技術協力を実施しています。今年度から新たに札幌



市消防局による「ウランバートル消防技術支援事業」、北九州市消防局による「インドネシア・バリクパパン市における泥炭・森林火災の消火技術普及モデル事業」が行われます。



救急救助技術集団研修
(大阪市消防局)
(平成25年8月)



消火技術集団研修
(北九州市消防局)
(平成25年8月)

【国際交流】

国際交流としては、アジア諸国における消防防災能力の向上や国際的なパートナーシップの向上を図るため、海外において「国際消防防災フォーラム」を毎年開催しています。第7回目となる本年度は10月16日(水)にミャ

ンマー連邦共和国において火災予防制度や職員の人材育成等を主な発表テーマとして開催いたします。

また、隣国である韓国の消防機関と相互理解を図り、連携・協力を推進することを目的として、「日韓消防行政セミナー」を毎年開催しています。

経済成長とともに都市部の人口急増が進み、火災や自然災害によるリスクが増大している新興国等では、消防の果たすべき役割が高まっており、我が国の消防の経験、知見、技術等を積極的に学び、取り入れたいというニーズも拡大する傾向が見られます。

国際協力を積極的かつ継続的に実施するためには、消防機関をはじめ、関係機関のより一層の連携が不可欠であり、関係者の皆様におかれましては、消防の国際協力に関するご理解とご協力を引き続きお願いいたします。



日韓消防行政セミナー
(平成25年1月)

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部参事官付 岡野屋、藤江
TEL: 03-5253-7507